

第6回江南市協働のまちづくり推進協議会 会議要旨

会議名：第6回江南市協働のまちづくり推進協議会

開催日時：令和7年5月28日（水）午前10時から午前11時30分まで

場所：江南市地域交流センター 会議室2

委員：出席委員7名

- 佐藤 正之（学識経験者）
- 小畑 勝士（江南商工会議所）
- 伊藤 光洋（江南市社会福祉協議会）
- 坂口 悦子（市民活動団体関係者）
- 佐野 宴（市民活動団体関係者）
- 中村 健一（市民活動団体関係者）
- 大池 夏子（市民公募）

事務局：平松 幸夫（企画部長）

大池 慎治（企画課長）

吉井 陽一（企画課 政策・協働グループリーダー）

白木 淳也（企画課 政策・協働グループ）

坪内 俊宣（企画課 政策・協働グループ）

江南市地域交流センター運営等業務受託者出席者2名

資料1 江南市地域まちづくり補助事業について

資料2 江南市地域交流センター令和6年度総括

資料3 KPI（重要業績評価指標） 報告書

別添1 江南市NPO・ボランティア団体 活動アンケート

議題	(1) 江南市地域まちづくり補助事業について (2) 江南市地域交流センターの運営状況について
----	--

会長挨拶

議題

(1) 江南市地域まちづくり補助金について

○事務局から、「令和8年度江南市地域まちづくり補助事業」の募集に向けて、前回協議会までの協議を踏まえた見直し案についての説明がありました。また、市民活動登録団体に、補助制度も含めたアンケート調査を実施することもあわせて報告されました。

委員	変更点の5、「補助期間を単年度とし、採択の上限を設定」について。展開コースは、これで本当にいいのでしょうか。これまでは、展開コースは3年で一つみたいなコースでしたが、それがなくなり。1団体、2回までということは、一年一年の2年で終わりってということになります。連携コースについていえば、「同一団体での採択の上限を1回まで」というのは、1年目は、A団体とB団体が連携でやり、次の年は、A団体、B団体とも1回やったから、仮に相手が変わったとしてもダメだと。
事務局	そうです。
委員	昨年のこの議論の時には参加できず（第3回 R6.7.30）、その変更は問題なんじゃないかっていうのが言えませんでした。前回（第5回 R7.2.4）の協議会では、言ったと思いますが、同じ団体でも、新しい取り組みであれば申請できていた。それもないと。
事務局	そうです。
委員	従来の制度では、新しい取り組みが生み出されるというか、そういう機能もあったと思います。その良いところがなくなるというのが一つの問題。こうなると、一つの団体で、展開コース2回、連携コース1回ということの縛りができるわけだけでも。そうすると、もう新規に設立された団体しか利用できなくなるのではないのでしょうか。応募が多くて困るような状況だったら、それも分からなくもありませんが、市民活動を促進していくというための補助事業だと思っていました。従来の良さというものをなくして本当にいいのか、という思いです。再度、協議、検討いただきたいと思います。
事務局	展開コースでは3年間での発展性を求めており、そこをハードルに感じられている団体もありました。昨年の見直しで、補助制度を利用できる回数は減りますが、活動実績のある団体でも、その回数以内でかつ、新規、拡大事業であれば、エントリー自体は可能ですので、その

	<p>あたりは心配ないと思います。地域交流センターに登録される団体も増えてはおりますので、いろんな団体に活用していただけるようにということで、昨年は見直しました。</p> <p>前回の議論の中では、「傾斜配分」、審査の点数の高かった順、例えば予算を傾斜配分していくのはどうかという意見もありました。今後申請件数が多くなってくると「傾斜配分」の考え方もあるかとは思いますが、今のところ、採択事業には申請どおりの補助金を交付できていますので、検討は継続的にしていければと思います。</p> <p>今回の見直しを実施してみて、数年後には、その影響、結果がわかってきます。応募が少なくなっていけば、どこかに課題があるということにもなります。また、登録 180 団体に対し、補助金について活用意向などもアンケートで聴取していきますので、この協議会でも継続した議論をお願いします。</p>
委員	過去に補助金を活用した実績のある団体は申請できなくなるが、1 団体のカウントの起点はいつまで遡るのですか。
事務局	展開コースでいえば、コースができた「平成 23 年度」とします。展開コース、連携コース、ともに申請できない団体はないと思います。
会長	平成 20 年代ぐらいから、これまでの間に採択されてきた団体、年間 10 団体は採択されてはいないと思いますが、この見直しによって申請できなくなる団体が半分ぐらいになると考えると、「事業内容」ではなく、「団体」で縛るのもどこまでがいいのか。
事務局	展開コースは継続して採択されれば 3 年ですが、また新たな事業を実施している団体もあるので、5 回ぐらい採択されている団体もあったかと思います。申請内容は同じなのに団体名を変え再度申請してくる、そういう問題も他市町村ではあるようです。ルールに関しては、ニーズを踏まえながらいろいろと検討したいと思っています。
会長	<p>ルール化ではなく、運用面でそういう制限をかけるとしたら、審査で判断するのもいいのかなと思います。補助事業は活動促進のためにあるものですが、運用を回しながら変更の必要があれば協議会の中で議論していきます。</p> <p>また他にご意見等あれば事務局にお伝えください。事務局には今の意見を踏まえて、募集要項を策定していただきたいと思います。</p>

(2) 江南市地域交流センターの運営状況について

○事務局から、令和6年度の地域交流センターの利用実績、実施事業及びKPI（重要業績評価指標）並びに7年度の取組についての説明がありました。

委員	地域交流センターの運営面について、最初はどうなるかなと思っていましたが、センターのスタッフさんの頑張りもあり、予想をかなり上回る実績が出てきていると思います。数字が上がるということは、現場スタッフがいろんな苦勞をされたり、企画とかもその人数に合わせて柔軟に増やしたり、またいろんなところとの連携を実現したりとか、そういった積み重ねがあつてのことだと思います。数字として表れているのもありますが、数字以外の見えないところも今後は「SDGs 官民共創プラットフォーム」の上で“見える化”されるといいと思います。
委員	資料3の3ページ、「区・町内会」が2団体増えていますがどのようなケースですか。
事務局	新しく大規模マンションができたことに伴い自治会も新たに設立された場合や、既存の区に加入していた集合住宅の住民が新たに自治会を設立した場合など。この2件はこのような事情によります。
委員	マンションやアパートの自治会加入は、基本的にはどうなりますか。
事務局	所在地の区（自治会）に加入していただくことになります。
委員	資料2のコミュニティカフェについて、詳細な説明をお願いします。
事務局	ホームページやSNSでも募集し、1回あたり10人ぐらいの参加でしたが、昨年度は2回、開催しました。テーマは「みんなで話そう！江南の子育て」で、議題をあまり持たずに、とにかく話をしようということで子育て支援に取り組んでいる、関心のある団体の方々が集まってくれました。 2回目になった時に、やっぱりちょっとそこは本当に今後の課題だなと思いましたが、話したいだけの人が、いっぱいすぎると、もう收拾がつかなくなるってということで、3回目はお休みをしました。わかったことは、1回目に話してすごく良かったから、次回も話をしようみたいなことはせずに、1回で終わった方がいいのかなと思いました。今年度は、昨年度の反省点や課題を踏まえて実施していきます。
委員	江南市国際交流協会の「ふくらの家」には、時々ですが、町内会の方から、外国人が引っ越してきたけど、ごみの出し方がわからないようなどの相談が寄せられます。「コミュニティカフェ」で話し合いが成立する「課題」というのは、具体的にどういうことがありますか。

事務局	まちづくりラボでも出ましたけれども、資源ごみ集積場の立ち当番がなぜ必要なのかとか。また、個人情報が入ったUSBを（他の役員）相手に渡していいのかとか、お祭りとか子供会とかでチラシを作るときに、著作権フリーなイラストを使っているだろうかとか。そういう権利とかルールとかを知らない中で、やらなきゃいけないことに走ってしまっているが、他の町内会はどうしているのか知りたいとか。コミュニティカフェでも出たが、やらない人に、どうやって、やらせるのかという部分が非常に課題になっています。
委員	少しずつでも、課題の解消はされそうですか。
事務局	<p>地域交流センターだけではなかなか難しい部分もあります。江南市にもご相談をしながら、解消していくように努めていきたいと思っています。</p> <p>コミュニティカフェのコンセプトは、不安なことなどをお互いに話して、その不安な気持ちを解消するぐらいのもので、それを共有されることによって、新たなアイデアがでたり、場合によっては、解決できる、あるいは、解決方法を知っている人たちにつながり、糸口が見つかることも期待できます。</p> <p>先ほどの区・町内会の悩みということで、企画課に寄せられるものでは、外国人の方が入居される事例がない地区ですと、入居案内も難しいという「区費の集金」ですね。なぜお金を取るのかという説明も難しいというようなお悩みというのをよくいただきます。最近では、翻訳機能のスマホアプリを使って、回覧物を翻訳して、日本語が苦手な方でも読めるようにしているところもあるようです。</p>
会長	資料3について。推進事業の骨子になっており、目標や実績値がありますが、1年目、2年目と、今どの段階にあるのか、何を軸にいくかみたいなものが資料でははっきりしません。事業はいっぱいやられているので、各事業の関連性が見えないので、そのフロー図というか、そういったものが提示されているということかということと、この資料は市民向けに公開されるのですか。
事務局	議事録に添付する形にはなりますが公表はしています。
会長	交流センターの活動が広がるように、どんな事業が行われて、どのような成果があったかというイメージを市民に公開、周知することがWebでできたら良いと思います。
事務局	先ほどのお話の中にもあったプロセスですね。その詳細な紹介、PRまではできていないところではあります。
会長	事業がたくさん実施されるほど、協議会で全体像を把握するのは難し

	いと思いますので、例えば3年以内の計画というか、“見える”ものがあると、協議会としては全体をよく把握しやすくなります。
事務局	事務局としては、年度ごとの目標などを持ってはやっておりますが、プロセスや結果などについて、利用者、市民の皆様方にも伝わるような形を研究していきます。

第6回江南市協働のまちづくり推進協議会次第

と き 令和7年5月28日（水）
午前10時から11時30分まで
ところ 江南市地域交流センター会議室2

1. 会長あいさつ

2. 議題

(1) 江南市地域まちづくり補助事業について

(2) 江南市地域交流センターの運営状況について

・江南市地域交流センター令和6年度総括

・KPI（重要業績評価指標）報告

3. 報告事項

江南市SDGs官民共創プラットフォームポータルサイト開設

○その他

机上配布資料について

配布資料

資料1 江南市地域まちづくり補助事業について

資料2 江南市地域交流センター令和6年度総括

資料3 KPI（重要業績評価指標）報告書

別添 江南市NPO・ボランティア団体 活動アンケート

江南市地域まちづくり補助事業について

「江南市地域まちづくり補助金」は、昨年度に補助回数の見直しや応募説明会の開催、審査及び成果報告方法の簡素化等の変更を行った。

令和 8 年度実施事業の募集に向けて、前回の協議会の内容を踏まえ、次の点について見直しを行う。

【参考：昨年度の主な変更点】

1. 応募説明会の開催（2回）
2. 申請様式（事業計画書）の簡素化
3. 審査方法の簡素化（プレゼンテーション→ヒアリング）
4. 成果報告会への出席を任意に変更
5. 補助期間を単年度とし、採択の上限を設定
 - ※展開コースは、採択の上限を1団体2回まで
 - ※連携コースは、同一団体での採択の上限を1回まで

【見直し内容】

（1）応募説明会の実施方法について

補助制度や申請方法についての説明会（参加は任意）を地域交流センターにおいて、平日と休日各1回実施する。また、以下の内容を盛り込み補助金活用の機運を高める。

- ① 令和6年度事業実施団体の報告会の様子を投影
- ② 令和7年度実施団体の取組状況の紹介

（2）審査方法について

公開審査会前に、審査員による申請内容の事前確認を行い、募集内容の把握や審査方法の確認を図る。また、公開審査会では、各団体のヒアリングの冒頭に、団体から事業概要などを説明する機会（3分程度）を設ける。

《想定スケジュール》

- ・本 日：第6回協働のまちづくり推進協議会で方針案提示
 - ・7月下旬：第7回協働のまちづくり推進協議会で募集要領（案）提示
 - ・8月下旬：募集の周知開始
 - ・9 月 中：応募説明会（2回）
 - ・10月～ 11月：募集開始（期間：10/1～11/12）
 - ・11月下旬：事務局で書類精査
 - ・12月中旬：審査員による申請内容の確認
- 令和8年
- ・1月上旬：公開審査会の開催
 - ・4月1日：事業開始

（3）アンケート調査 ※別添：江南市 NPO・ボランティア団体活動アンケート

市民活動団体に対して実施するアンケートにおいて、補助制度についての設問を設け、ニーズ調査を行い、次年度以降の制度運営の参考とする。

令和 7 年 5 月 28 日
江南市地域交流センター

江南市地域交流センター令和 6 年度総括
～本事業の骨子をふまえ～

1. 本事業の骨子：江南市地域交流センター発「全世代・全員活躍のまち」推進事業
2. 本センターの目的：

江南市地域交流センター（以下「地域交流センター」という。）は、年齢や性別、国籍、障害の有無にかかわらず、すべての人が様々な活動や交流を通じて、生涯にわたって活躍できるよう、多様な主体が集い、対話し、行動する地域協働の拠点として、地域資源の集約と発信、地域課題の解決に向けた自主的かつ自発的な行動の促進、新たな活動を創出できる環境づくりに取り組むことが目的です。

開館 2 年目となる令和 6 年度は、さらなる市民活動団体支援、区・町内会支援についての事業の充実をはかりました。

3. 業務内容について

地域交流センター運営等業務

会議室利用の平均稼働率 66.0%、最高稼働率 75.2% と高い数値となり、令和 5 年度の平均稼働率 46.0%、最高稼働率 63.1% を大幅に上回りました。そのため、スタッフは仕様書以上の人員を配置して業務にあたりました。

稼働率の高さの理由は、対面ヒアリングから、駅前施設、官民複合施設、料金が安い、時間区分が 2 時間で借りやすいという理由ということもわかってきました。

作業コーナー利用件数は、令和 5 年度は 769 件、令和 6 年度 850 件となり 81 件増加しました。

各種情報収集・提供業務

令和 6 年 4 月から令和 7 年 3 月までに市民活動団体は 17 団体増加し、各団体の情報提供や収集に努めました。

江南市地域交流センター発行の情報紙「toko*toko News Letter」（年 4 回発行）が本格稼働し、取材から、編集、発行から、市民活動団体への送付まで一貫してセンターのスタッフが行うことで、各団体とのヒアリングを通じ、課題などを聞くことができました。

また、団体の活動状況・団体主催イベントの広報等を行う「ひと・コトこうなんマルシェ」の開催を行い（計 4 回）、掲示による市民活動団体の活動内容紹介の他、ワークショップの開催により団体と市民との交流の機会を創出しました。

研修業務

<彩色まちづくりゼミナール等の開催（年2回以上）>

第1回目（5月4日開催）は江南市地域交流センター1周年及び市制70周年を記念して「いろんな人とかかわりながら「生きる」について考える日」をテーマに、3部構成で開催しました。（延べ119名参加）

第2回目（7月9日開催）は「自治会・町内会の運営お役立ちセミナー」として、自治会・町内会の現状と課題、運営の基礎知識について学べるセミナーを開催しました。（29名参加）

第3回目（11月16日開催）は「やりたいことの一步を踏み出そう」をテーマに、市民活動・ボランティアへの参加、ステップアップについて学べるセミナーを開催しました。（32名参加）

<コミュニティ人材の育成（随時）>

第3回彩色まちづくりゼミナール（11月16日開催）にて「やりたいことの一步を踏み出そう」をテーマに、市民活動・ボランティアへの参加、ステップアップについて学べるセミナーを開催しました。（32名参加）

昨年度に引き続き、第2期として学生を中心に江南について議論し、プレゼン能力等を磨く「江南まちづくりLabo57」（10月18日、11月15日、12月20日、1月17日、3月8日）を開催しました。（18名参加）

江南市が「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」に選定されたことから、SDGs×まちづくりをテーマに活動しました。江南市らしいSDGsとは何か？についてフィールドワークなどを通じて自分たちにもできることについて考え、集大成として「江南市SDGsシンポジウム」でプレゼンを行い、来場者に「SDGs目標カード」と「ノート」をノベルティとして配布しました。

デジタルを活用した区・町内会のお困りごと相談会を試験的に開催（1月17日～3月16日）し、自治会の課題となっていることとは何かをヒアリングを行いました。これらの事業は継続性と発展性を持たせ、よりブラッシュアップして次年度に引き継ぐ形で開催を行い、地域課題に取り組みます。

交流業務

地域交流センターが多世代・多様な人々の交流の場となるために、誰もが訪れたいくなるような幅広い分野にわたる企画を立案し、新たな交流の機会を提供しました。

また、各種活動の持続・活性化を図るため、活動者同士の新たなネットワークが生まれる場となるように情報交換や交流を促進しました。

さらに、幅広い世代が集うコミュニティの活動の場となるために、地域のふれあいの場として親しまれる施設となるような企画を立案し、実施しました。

<ひと・コトこうなんマルシェ>

市民活動団体の活動内容や、団体主催イベントの周知、広報として4回の開催を行いました。（5月4日、8月12日、11月16日、3月15日）

第2回目では江南市社会福祉協議会様との共催、第4回目の開催では保健センター様、図書館様にご協力をいただき開催しました。

<コミュニティカフェ>

団体間、自治会間を繋げ、相互の課題共有、解決を目的とし、令和6年7月から試験運用として2回開催しました。

<地域まちづくりフォーラムの実施>

江南市地域まちづくり補助事業の採択団体による事業報告会を通じて、事業の成果と課題を共有し、参加者同士の交流を図りながら、市民活動やボランティア活動の発展を促す場とするとともに、新たに参加する市民等を増やすきっかけづくりとなる事業を企画し、運営を実施しました。

前半で、市民活動団体の補助事業対象者（プレゼン形式3団体、ブース形式2団体、掲示形式5団体）の成果発表会の場を持ち、司会（ゲスト）にタレント・俳優の青木さやか氏を招いて発表団体へのコメント、掛け合いを行っていただきました。

後半では、「自分の考えるまちづくり 実践事例」と題し、大ナゴヤツアーズ代表 加藤幹泰氏を招いて講演を行いました。

江南市地域まちづくり補助金制度運営支援及び補助団体支援業務

<市制70周年記念コース地域まちづくり補助事業>

市と連携して、江南市地域まちづくり補助金制度運営支援及び補助団体支援業務を行いました。相談会に同席して申請内容を把握し市民活動団体の取り組みを支援しました。

センターホームページ・SNS等で周知を行うほか、70周年補助事業ではセンターでチラシを作成し、PRの支援を行いました。相談会では17団体、延べ26回の相談を受け付け、14団体の応募につながりました。

また、補助金交付団体への支援として、情報紙への積極的な掲載、イベント案内の広報の協力等の支援に努めました。

<地域まちづくり補助事業>

市と連携して、江南市地域まちづくり補助金制度運営支援及び補助団体支援業務として、応募説明会の開催（10月5日・10月18日）を開催し、センター窓口にて随時相談を受けました。

また、チラシの作成、センターホームページ・SNS等での周知・PRを行いました。7団体、延べ11件の相談を受付、6団体の応募につながりました。

また、補助金交付団体への支援として、情報紙への積極的な掲載、イベント案内の広報

の協力等の支援に努めました。

ロッカー等貸出業務

ロッカーの管理の他、会議室や作業コーナーを頻繁に利用される団体へ積極的に利用案内を促しました。ロッカーは12個のうち9団体の利用がありました。

システムの開発について

会議室予約システムの本格稼働を令和6年4月から開始、市からも管理画面が確認でき、リアルタイムで貸出状況を把握できるようにしました。

布袋駅東駅前広場について

利用可能日を増加したことで利用率自体は下がりましたが、利用件数は令和5年度よりも増加しました。駅前広場利用を促すチラシを作成し配架、ホームページやSNSへ掲載し、広報を行いました。

令和7年度より、センター休館日以外利用が可能となったことや、予約可能期間の変更や個人事業主の単体利用が可能になる等ルール変更もあったことから、利用案内についても改めて周知を進めていきます。

その他

- ・団体からの登録内容の変更等を記録し、都度更新を行いました。
- ・地域交流センターの利用状況は、毎月月報にてご報告をいたしました。
- ・交流センターパンフレット、会議室利用案内やSNS案内等の他、催事毎にチラシを作成し、多くの方に事業の参加していただくきっかけとなりました。
- ・毎日欠かさずメール対応を行いました。メールアドレスは全員で共有メールを使用し、ミスや漏れを全員でチェックできる対応をしております。
- ・市と連携し、審議会への出席や事業への協力、その他事業目的に資する業務を行いました。
- ・事業を行う際は都度市へ確認し、必要に応じて業務を行いました。

以上

**令和 6 年度
江南市地域交流センター発「全世代・全員活躍のまち」推進事業
KPI（重要業績評価指標） 報告書**

1. 事業名：江南市地域交流センター発「全世代・全員活躍のまち」推進事業

2. 事業の目的：

市民活動団体をはじめ、地縁団体、民間等事業者、教育機関など多様な主体の交流拠点として、「江南市地域交流センター」（以下、地域交流センターという）を設け、この地域交流センターを拠点として、民間等事業者による市民活動支援、地域人材の育成、交流及び賑わいの機会づくりなど各種事業を一体的に展開することで、江南市における関係人口の拡大や地域コミュニティの維持などを目指すものである。

本事業の実施により、人口減少に直面している状況下でも、まちづくりに関わる主体を増やし、育成することで、地域の担い手不足の課題解決に貢献すること、また、世代や主体を問わず関わり、賑わう機会を創出し、市の魅力向上及び地域住民の市への愛着の向上へ結び付けることをねらいとし、将来的に、市民が生涯にわたり安心して住み続け、活躍できる持続可能なまちづくりを目指していく。

3. KPI（重要業績評価指標）

- ① 江南市地域交流センターの利用者数
- ② 当該事業により実施したイベント等行事の参加者数
- ③ 地域コミュニティの団体数
- ④ 市が市民活動団体（NPO、地縁団体等）、民間等団体及び教育機関と連携して実施する事業の数

① 江南市地域交流センターの利用者数

・ 地域交流センターを交流の場として活用することを促進するために、市民活動等支援業務及び地域人材の育成業務によって各主体の活動意欲を高め、交流機会の創出業務により地域交流センターに集う動機を誘発し、また、情報の収集発信業務によりPRを実施した全体の結果として生まれる指標。

- ・ 目標値：10,000人 ・ 実績値：22,439人（達成率224%）
- ・ 月別の平均利用者数 約1,870人

（参考：令和5年度）

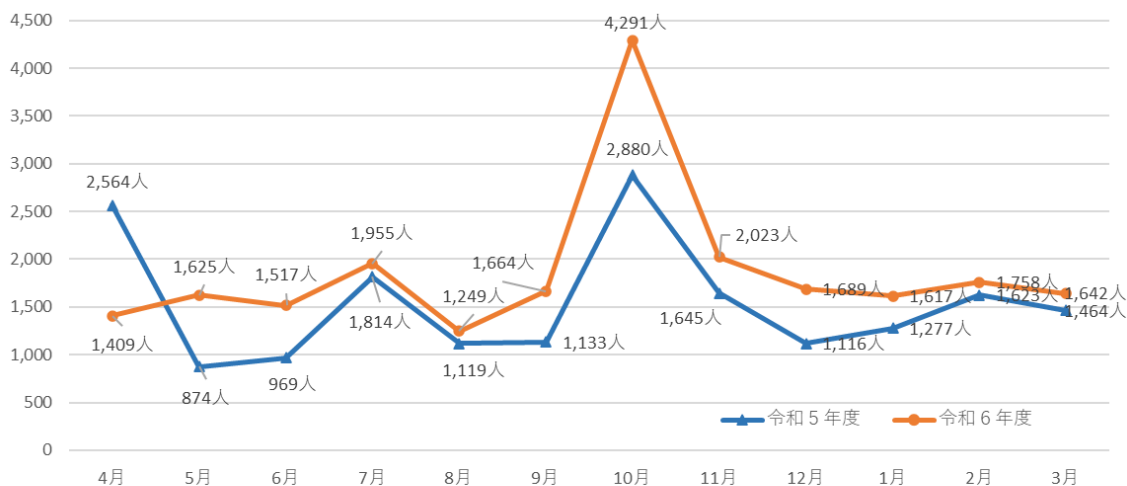
- ・ 目標値：7,500人 ・ 実績値：18,478人（達成率246%）

- 令和6年度の地域交流センター利用者数については、目標値10,000人に対し、実績値22,439人で目標値を大きく上回った。また、令和5年度から4,000人程度増加した。

・ 江南市地域交流センターの利用者数

(人)

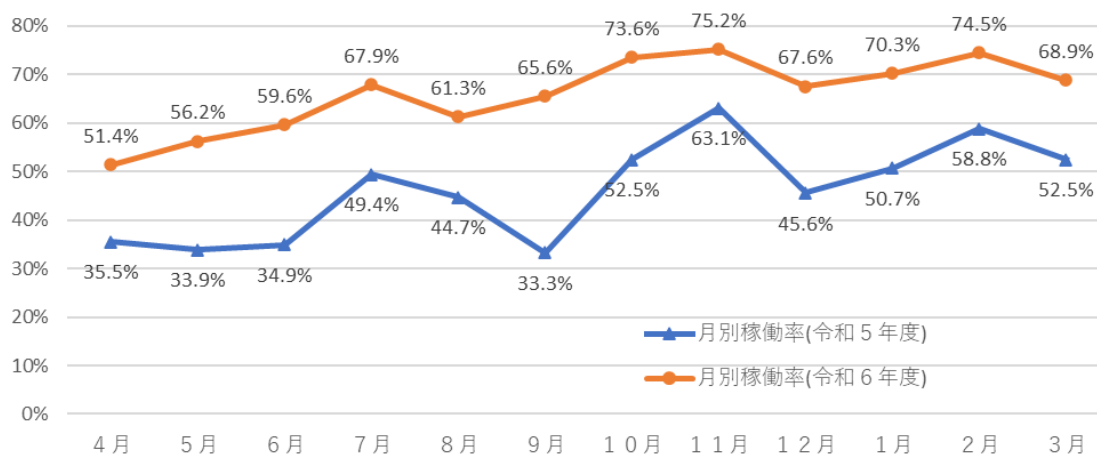
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R5	2,564	874	969	1,814	1,119	1,133	2,880	1,645	1,116	1,277	1,623	1,464	18,478
R6	1,409	1,625	1,517	1,955	1,249	1,664	4,291	2,023	1,689	1,617	1,758	1,642	22,439



○ 要因として、地域交流センター会議室の稼働率が年間平均66.0%と前年比で20%増加したことが考えられる。

会議室稼働率 稼働率の比較 (令和5年度・令和6年度)

- ・ 令和6年度 年間平均稼働率 **66.0%** (前年度比20%増)
- ・ 令和5年度 年間平均稼働率 46.0%



② 当該事業により実施したイベント等行事の参加者数

- ・ 江南市において不足している関係人口の拡大や、市民活動への関心を高めるために当該事業で実施する、交流機会の創出や、地域人財の育成に参加した者の数を把握する指標。

- ・ 目標値：756人 ・ 実績値：1,247人（達成率165%）
- ・ 月別の平均参加者数 約104人

（参考：令和5年度）

- ・ 目標値：336人 ・ 実績値：1,056人（達成率314%）
- ・ 月別の平均参加者数 88人

- 令和6年度の地域交流センターで実施したイベント等の参加者数については、目標値756人に対し、実績値1,247人で目標値を大きく上回った。月別の利用者数について、毎月尾北シニアネットによる「スマホ・パソコン初心者相談会」に、25人程度が参加している。また、本年度から開始した「ひと・コトこうなんマルシェ」（8月、11月、3月）に多くの来場があったことから年間の参加者数が増加している。

・ 当該事業により実施したイベント等行事の参加者数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R5	19	36	33	44	76	31	553	49	51	56	39	69	1,056
R6	31	134	24	57	180	16	47	185	43	67	80	383	1,247

・ 主なイベント

イベント名称	内容	参加者数
スマホ・パソコン初心者相談会 (毎月第1から第4水曜日)	ボランティアグループの協力による、初心者を対象としたスマートフォン、パソコン操作に関する相談会	286人
彩色まちづくりゼミナール (年3～4回開催)	NPO・ボランティア活動をしている方、これから始めてみたいと考えている方及び少しでも関心のある方向けの講演会	179人
地域まちづくりフォーラム (3月)	地域まちづくり補助事業の実施団体による成果報告会と市民活動やまちづくりをテーマにしたフォーラム	40人
ひと・コトこうなんマルシェ (年3～4回開催)	市民活動団体の活動内容の掲示やワークショップ	554人

③ 地域コミュニティの団体数

- ・ 地域の担い手不足や新たに活動を始めようとする団体のスタートアップ支援として実施する、市民活動等支援業務により増加に結びつけようとするものであり、団体数を把握する指標。

- ・ 目標値：毎年5団体の増加 ⇒ 474団体
(令和3年度時点464団体+10団体(2ヵ年分))
- ・ 実績値：令和6年度2団体の増加 ⇒ 469団体
- ・ 達成率：50%

(参考：令和5年度)

- ・ 目標値：毎年5団体の増加 ⇒ 469団体
(令和3年度時点464団体+5団体)
- ・ 実績値：令和5年度3団体の増加 ⇒ 467団体
- ・ 達成率：60%

- 令和6年度の地域コミュニティの団体数は、市民活動団体が8団体増加したが、老人クラブが6団体と大幅に減少したことから目標値を達成することができなかった。

市民活動団体の新規登録数は、令和5年度40団体、令和6年度17団体と増加した一方で、構成員の高齢化などに伴い解散する団体もある。高齢化に伴う地域コミュニティの減少に対して、地域交流センターにおいては、引き続き市民活動団体の活動支援を行うとともに他のコミュニティとの交流機会などを設け、コミュニティの活性化を図っていく。

・ 地域コミュニティの団体数

区分	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	増減 (R6-R3)
区・町内会	133	133	135	135	2
NPO・ボランティア団体	144	141	173	181	37
消防団	5	5	5	5	0
P T A	15	15	15	15	0
交通安全パトロール	72	71	66	66	△ 6
老人クラブ	59	43	40	34	△ 25
子ども会	36	37	34	33	△ 3
合計	464	445	467	469	5
増減(前年度比)	△ 7	△ 19	22	2	

④ 市が市民活動団体（NPO、地縁団体等）、民間等団体及び教育機関と連携して実施する事業の数

・ これまでの行政と市民との協働から本事業により発展させた多様な主体とのマッチングや交流機会の創出による効果を計測するために、各主体とタイアップして実施した事業数を毎年度把握する指標。

- ・ 目標値：毎年5件の増加 ⇒ 79事業（令和5年度74事業）
- ・ 実績値：令和6年度5事業の増加 ⇒ 79事業
- ・ 達成率：100%

（参考：令和5年度）

- ・ 目標値：毎年5件の増加 ⇒ 73事業
（令和3年度時点68事業+5事業）
- ・ 実績値：令和5年度6事業の増加 ⇒ 74事業
- ・ 達成率：120%

○ 令和6年度の市が市民活動団体（NPO、地縁団体等）、民間等団体及び教育機関と連携して実施する事業の数については、前年度からの増加数の目標値5件に対し、実績値5件で目標値を達成した。令和6年度は、市制70周年事業として実施するイベントなどにおいて、企業や学生と連携した取り組みが多く実施された。また、当市がSDGs未来都市に選定されたことから、SDGs推進に係る連携事業が実施された。

令和7年度は、江南市SDGs官民共創プラットフォームが本格稼働したことから、官民連携による取り組みを引き続き促進していく。

・ 連携事業（※抜粋）

	課名	事業名	事業概要	協働の相手先
補助	商工観光課	江南市民花火大会開催事業（市制70周年記念江南市民花火大会2024）	多くの市民に夢と活力を与えることを目的とする花火大会に対して補助する。	江南市民花火大会実行委員会2024
事業協力	企画課	フュヅラノツドイ。における企画・運営	令和6年12月7日に実施した、市制70周年記念事業であるスカイランタンイベントの当日運営補助やイベントに係る企画・実施について事業協力を受けた。	名古屋経済大学、江南まちづくりLabo57、株式会社三菱UFJ銀行、東海テレビ放送株式会社
委託	企画課（委託先：(株)船井アシエイツ）	江南市SDGsシンポジウムにおける学生によるプレゼンテーション	令和7年3月8日に開催した「江南市SDGsシンポジウム」において、学生による「SDGs×まちづくり」をテーマにプレゼンテーション発表を実施した。	高校生、大学生（公募）

【提出期限】令和7年6月20日(金)

江南市 NPO・ボランティア団体 活動アンケート

江南市で活動している市民活動団体の皆様へ、活動内容などについてアンケート調査を実施します。

QR

右記二次元コードからも回答いただけますので、ご協力をお願いします。

団体名	
-----	--

1. 活動状況について

(1) 活動の頻度を教えてください。

- 週に1度程度 月に1回程度 2～3ヶ月に1回程度
半年に1回程度 1年に1回程度 休止中
その他 ()

(2) 主な活動場所を教えてください。(複数回答可)

- 地域交流センター 公民館 布袋ふれあい会館
中央コミュニティ・センター 学習等供用施設
KTX アリーナ (江南市スポーツセンター) すいとぴあ江南
Home&nico ホール (江南市民文化会館)
その他 ()

(3) 主にどの年代の方で活動しているか教えてください。

- 20代以下 30代 40代 50代 60代 70代 80代以上

(4) 活動するうえでの困りごとがあれば教えてください。(複数回答可)

- 広報・PR活動 活動資金の確保 活動拠点の確保 他団体との連携
人員の確保・育成
スキル不足 (会計処理 チラシ作成 その他 ())
その他 ()

2. 地域交流センターについて

(1) 利用したことがある施設(機能)を教えてください。(複数回答可)

- 会議室 作業コーナー オープンスペース 利用したことがない

(2) 市からの支援として有効だと考えるものを教えてください。(3つまで回答可)

- 広報・PR支援 活動資金の助成 活動場所の提供
他団体との交流機会の提供 ボランティア証明書の発行
ボランティア人材のマッチング 人材育成 (講演会 ワークショップ)
その他 ()

※裏面に続きます

○ 地域交流センターでは、市民活動やボランティアに興味のある方を対象に定期的にセミナーを開催しています。

(3) 受講したいセミナーの内容があれば教えてください。(複数回答可)

- 広報・PR 資金調達・助成金獲得 組織・運営 (法人化など)
 人材育成 活動事例紹介 ボランティア募集
 わからない 特になし

○ 布袋駅東駅前広場 (地域交流センターと布袋駅の間の広場) は、駅前の賑わいや地域活性化、様々な団体や世代が参加して交流できるイベント等で利用することができます。

(4) 布袋駅東駅前広場のイベント等での利用意向について教えてください。

- 利用を考えている 利用したいと思うが、実現には課題がある
 利用の予定や考えは今のところない わからない

○ 地域交流センターでは、江南市地域まちづくり補助事金の申請受付や申請支援を行っています。

(5) 江南市地域まちづくり補助金の活用について教えてください。

- 活用したことがある 活用したいと考えている 活用する予定はない
 制度を知らない わからない

(6) 補助金額についての希望内容を教えてください。(現行1団体上限10万円)

- 現行より採択数は少なくなるが補助額が大きいコースの創設 (30万円以上)
 現行の1団体あたり10万円のままでよい
 現行より採択数が増えるような補助額が少ないコースの創設 (5万円程度)
 特になし、わからない

(7) その他、市民活動についてご意見、ご要望があれば教えてください。

ご協力ありがとうございました。